

# 認知症対応のための院内体制整備①

## 認知症対応における方向性と役割



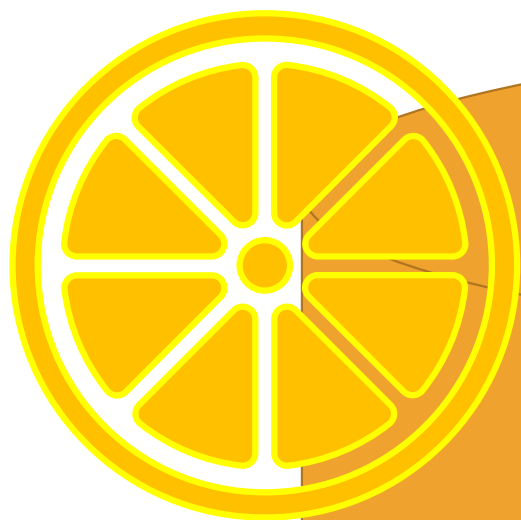
# 認知症対応のための院内体制整備について

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」

## 新オレンジプラン7つの柱

1. 普及・啓発
  2. 医療・介護等
  3. 若年性認知症
  4. 介護者支援
  5. 認知症など高齢者に優しい地域づくり
  6. 研究開発
  7. 認知症の人やご家族の視点の重視
- ※7は新オレンジプラン全体の理念でもある



# 1 一般医療機関における認知症への対応のポイント

## 1) 認知症を理由に身体疾患の治療機会が失われてはならない

### 認知症

- ◎ すべての医療介護関係者に対応が求められる疾患。
- ◎ 個々の価値観や思いを持つ主体として尊重する。  
本人の希望が実現できるよう、本人の有する力を最大限活用する。
- ◎ 生活習慣病等、積極的な介入は予防に貢献できる可能性がある。



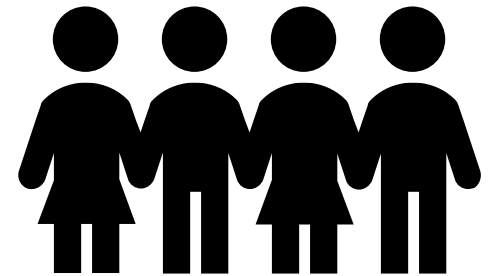
## 2) 診療科や医療と介護といった垣根を超える連携が必要

◎ 診断や治療で認知症の専門医療と相談できる体制を構築する。

医療関係者

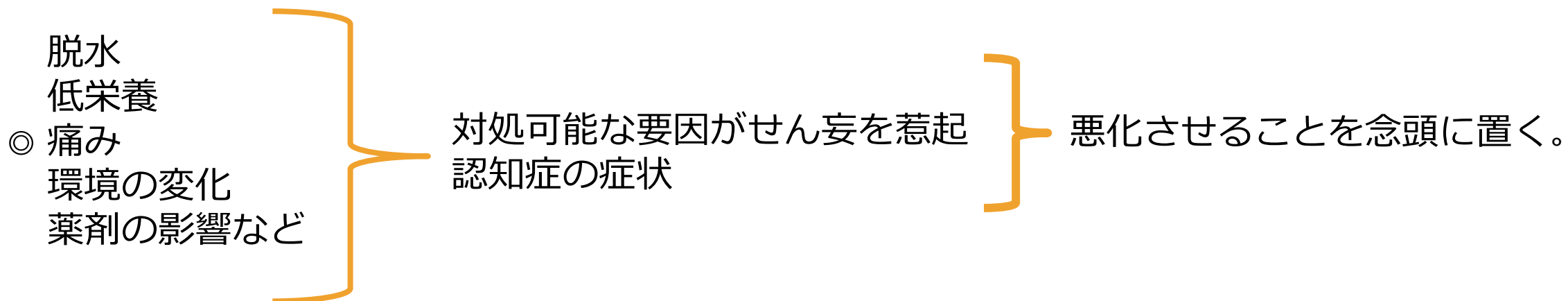
◎ 家族  
介護関係者等

退院後の地域における生活も考慮した連携体制を構築する。



### 3) すべての症状が認知症の症状とは限らない

◎せん妄の可能性を念頭に置く。



◎スタッフへの普及啓発や、せん妄への対応チームの設置を推進する。